

第44回 緑の市民懇話会 会議録（要旨）

1 日時 平成30年8月10日（金） 10:00～12:00

2 場所 生駒市役所 401・402会議室

3 出席者

（参加者） 久隆浩座長、下村泰彦、新居延之、倉品夏江、澤村章男、高橋美由紀、
日高容子、山田勲、山田陽子、秋山解、増田千佳

（事務局） 財満みどり公園課長、知浦みどり公園課課長補佐、大神花のまちづくりセン
ター所長、竹田みどり公園課主幹、高橋みどり公園課係長、
新田みどり公園課主任

4 議事内容

1 開会

2 案件

- （1） コミュニティーパーク事業の箇所選定について
- （2） 花と緑のまちづくりコンテストについて

3 その他

4 閉会

5 議事録

- （1） コミュニティーパーク事業の箇所選定について

【事務局説明】

- ・資料にてコミュニティーパーク事業について説明。（みどり公園課）
- ・今回はローレルコートエスタ萩の台自治会「萩の台第5公園」のみ応募があった。

【審査のポイント】

- ①地域の連携・・・自治会を中心に地域の方々が連携してワークショップに参加できるか。
- ②公園の課題解決・・・既存公園の課題を踏まえ、課題解決に取り組む意欲があるか。
- ③公園の育成・・・公園をよりよく利用し、管理等にも積極的に取り組む意欲があるか。

【萩の台第5公園の概要】

- ・種別: 街区公園 面積: 1,649.45 m²
- ・「住宅地の景観及び環境保全との調和を図るべく、自然林とともに遊具・広場等を整備し、憩いの場を提供する公園」として平成8年5月1日に開設される。
- ・平成30年7月現在の人口は158世帯413人。65歳以上の高齢化率は16.22%、年少化率は9.93%。
- ・近鉄萩の台駅から南東へ約500mにあり、ローレルコートエスタ萩の台3号棟からスロープがついている。高台にあって生駒山を望むことができ、北面は自然林がある。
- ・萩の台5丁目は本公園を含み、他に2公園・2緑地がある。

【萩の台第5公園の問題点】

- (1) 少子高齢化に伴い遊具や砂場の使用頻度が少ない。
- (2) 樹木が大きくなり育ち、日当たりが悪い。
- (3) 当該公園へのアプローチは傾斜地にあり、階段でしか寄り付けない。

【公園の育成、施設等に対する希望】

- (1) 高齢者や体の不自由な方でも使いやすくする。
- (2) 防災時の炊き出し等可能にしたい。

憩いの場として新たに整備できれば、周辺住民の集う場所としてコミュニケーションを図り、疎遠になりがちな近所付き合いを復活させたい。生駒山が羨望できる位置にあることを活かし、高齢者が夕日を見ながら気分転換して、みんなが憩いの場としてふれあうような、自治会の財産となる公園にしたい。

【委員の審査】

- ・高齢者のためと言ってぶら下がり棒などをつくっても利用度がイマイチなので、若者主題の公園にしたほうがよい。
- ・住宅地とマンションの自治会としてのコミュニケーションが取れるか。
- ・人口413人に事業費1000万円を出すので、隣接の住宅地自治会や子どもたちなど、広範囲に声をかけるべき。
- ・当該公園がローレルコートエスタ萩の台自治会の公園という認識になっていないか。
- ・近くの市立生駒南第二小学校の運動場で練習しているソフトボールチームの子ども達の中には、当該公園を利用しているローレルコートエスタ萩の台自治会の子どものほか、ローレルコート萩の台自治会や萩の台住宅地自治会、萩の台自治会などの子どもがいて、お互いにつながりがある。
- ・そのためには条件として複数団体でワークショップを開くことを提案するべき。
- ・東山の新興住宅地もあるので、そこの人達も参加してくれたらうれしい。

- ・できれば公園づくりとコミュニティづくりの両方に特化したコンサルに入ってもらいたいが、入札なので、できるだけ事務局がサポートすべき。
- ・当該公園は勾配があるため、車椅子で上げられるような緩い傾斜路をつけるのは難しい。

【審査結果】

- ワークショップでコミュニケーションが積極的に行われるような工夫をする。
- 条件付採択として、近隣住民や子どもたちにも声をかけ、たくさんの方々に公園づくりとコミュニティづくりに参加してもらおう。

(2)花と緑のまちづくりコンテストについて

【事務局説明】

- ・資料にて今年度のコンテスト参加者に係る植替え時期について説明。(花まち)

【花と緑のまちづくりコンテストの現地審査の時期について】

現在の1回目の現地審査は5月中旬から下旬にかけて行っているが、ちょうど花の植替え前でかなり傷んでいるため、7月上旬に変更してほしいとの声が複数団体からあった。

【委員の審査】

- ・5月は、冬の花が終わり、予算も未定で苗が買えない時期なので、7月のほうがよい。
- ・7月にすると、春の一番きれいな花の時期が見られないのではないか。
- ・2回目の9月と3回目の11月ではあまり差がないため、9月と11月の間を取って10月でもよいのではないか。
- ・5月になった経緯としては、バラに特化した応募者がいたためであるが、今は応募されていないので5月にこだわる必要はない。
- ・現在年3回だが、年2回でもよい。
- ・4月を1回目の審査にするなら、冬の花を夏までどう残すかという維持管理を見てもらえる。
- ・4月末に1回目で春の花を、7月に夏の花を、11月に秋冬の花を見てもらいたいので、年3回のほうがよい。
- ・当コンテストの募集期間は現在4月1日～4月末までとしているが、締切を4月中旬くらいにすれば、4月下旬の現地審査に間に合う。
- ・審査時期の変更の旨はホームページや募集チラシにも掲載されるので、応募団体のスケジュールには影響しないと思われる。
- ・今年度から新人賞ができたので、それを大きくPRすると個人ももっと参加しやすいのではないか。

【審査結果】

○現地審査について来年度から、1回目は4月下旬、2回目は7月上旬、3回目は11月下旬に変更する。

(3)その他

○鹿ノ台自治連合会

今年4月に総務省から表彰、納涼祭を映像取材に来る。環境省のホームページにもアップされている。

○生駒駅前について

生駒駅前北側は開発で緑地がたくさんあるが、南側にはない。澤村氏といなもり氏で小さな花壇をつくってはいるが、市でももう少し駅南側に緑地や花壇のスペースをつくってほしい。